



写真一 千里インター上空から千里中央～北摂山系を望む(平成 21 年(2009 年)撮影)

千里のあゆみ

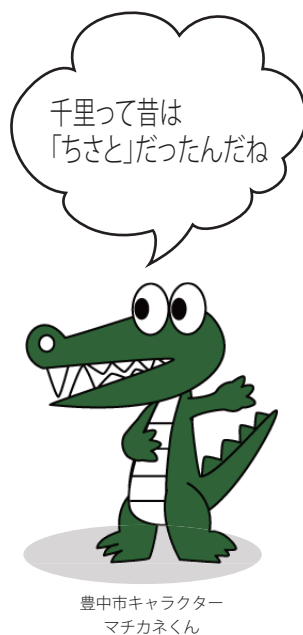
千里(ちさと)から千里(せんり)へ

千里丘陵は大阪北部にあって南北約 8 km、東西約 12 km の範囲に広がっています。その中の豊中市と吹田市にまたがる地域に千里ニュータウンはあり、南北約 5 km、東西約 4 km に収まる面積約 1,160ha (甲子園球場 300 個分) の広さで、12 のまち(住区)からなる人口約 101,600 人(令和 2 年 10 月現在)の住宅都市です。[P.34 参照](#)

かつて千里丘陵はいくつもの丘と細長い谷が入り組んでいたことから [P.30 参照](#)

千里山(ちさとやま)と呼ばれ、ほとんどが樹林に覆われていました。「千」は「たかさんの」という意味です。「せんり」と呼ばれるようになったのは、大正 10 年(1921 年)に吹田市で開発された郊外住宅地「千里山(せんりやま)住宅」が最初で、同時に今の阪急電車の「千里山駅」ができました。

千里ニュータウンの公園や周辺の千里緑地には、竹林やアカマツ林、雑木林など、かつて「ちさとやま」と呼ばれた頃の面影が残されています。



住区の交流拠点・近隣センター(新千里東町)



歩行者専用道路・こぼれび通り(新千里東町)

千里ニュータウンのなりたち

●千里丘陵の開発

日本では昭和 30 年(1955 年)頃から都市への人口集中が始まります。大阪府は多くの住宅を供給するために、大阪市の中心部から 10~15km にあって広域的な道路や鉄道の整備の可能性がある千里丘陵に大規模な住宅地を建設することを決定します。昭和 33 年(1958 年)のことでした。

●日本初のニュータウン

ニュータウンとは、イギリスから始まった郊外の住宅都市のことを言います。学校、役所、文化施設、商業施設、鉄道、道路、公園などが計画的に配置されています。千里丘陵の開発では、「健康で文化的な生活を享受できるまち」を目標とし、ニュータウンの考え方に基いてまちが建設されました。昭和 37 年(1962 年)に吹田市佐竹台で入居が始まります。日本初のニュータウンの誕生です。



千里ニュータウンの位置

●ニュータウンの計画理念・近隣住区理論

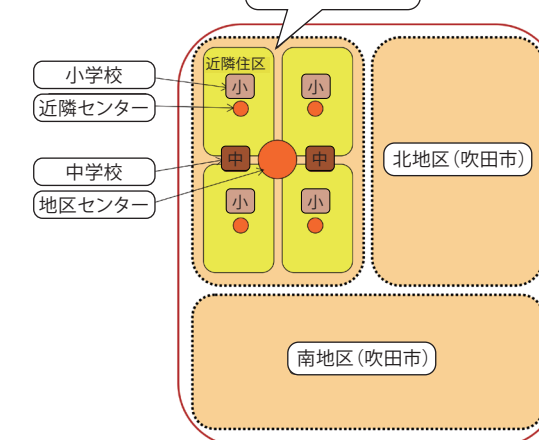
ニュータウンの住宅地計画は「近隣住区理論」を基本としています。一つの小学校区をまち(住区)の単位とすることでコミュニティのまとまりを生み出そうとする考え方です。[P.48 参照](#) 千里ニュータウンでは住区の中心に住民の交流の場となる近隣センター(商店街・集会施設・広場)や小学校を配置し、半径約 500m を住区の広さの標準としました。

●住区建設の順序

吹田市の佐竹台から始まった住区の建設はほぼ反時計回りに進められました。豊中市側は昭和 41 年(1966 年)の新千里北町の入居が最初です。

●後半に建設された住区の特徴

後半からは住区内を結ぶ歩行者専用道路が設けられました。この道路は車が通らない遊歩道として整備され、近隣センターや学校、公園などを結ぶ暮らしの道・憩いの道となりました。



近隣住区理論に基づく千里ニュータウンの構成

*前半:昭和 37 年(1962 年)~昭和 40 年(1965 年)に建設された住区...佐竹台・高野台・古江台・津雲台・藤白台・青山台(建設順)

*後半:昭和 41 年(1966 年)~昭和 44 年(1969 年)に建設された住区...新千里北町・新千里東町・桃山台・竹見台・新千里西町・新千里南町(同上)